

～第1回理数科シンポジウム～

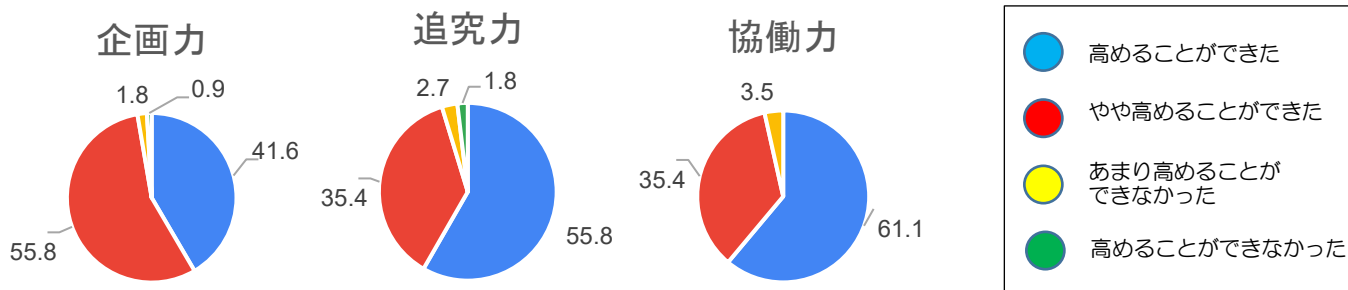
◆実施日：4月22日（水）6・7限

◆参加者：天城高校理数科（1年～3年次生）

高校1年次生～3年次生までが集まり、縦割り10班に分かれて、探究活動や、理数科の特色や高校生活などの話し合いが行われました。下級生が上級生に質問したり、上級生から下級生にアドバイスしたりして、科学的研究スキルの継承の場となりました。



<アンケート結果> 企画力 97.4% 追究力 91.2% 協働力 96.5% が肯定的意見！



<1年次生の感想要約>

○1年次生は、これから始まる課題研究への具体的な進め方やテーマ設定のコツについて多くの気づきを得ることができました。

【テーマ設定の重要性】身近な疑問を大切にすることや、得意分野よりも「興味」を優先して選ぶことの大切さを学びました。

【チームビルディング】課題研究は、仲間と協働することの大切さを認識することができました。

【学校生活の指針】先輩たちの体験談から、部活動と課題研究の両立方法や、理数科としての心構えを学び、これからの生活に期待を寄せています。

<2年次生の感想要約>

○2年次生は、現在進行中の研究をいかに効率的に進めるかという、実務面やスケジュール管理に関する気づきを中心でした。

【計画的な進行】2年生の後半は論文作成や勉強で多忙になるため、今のうちに実験を進めておく必要があるという「危機感」を抱いた人が多かったです。

【具体的なスキルと工夫】Excelの使い方、論文作成の注意点、行き詰まった際にノートで整理することの重要性など、より実践的なアドバイスを参考にすることができました。

【失敗からの学習】3年生の失敗談を聞くことで、自分の研究を客観的に見直すきっかけを得ており、同じミスを繰り返さないよう意識を高めています。

<3年次生の感想要約>

○3年次生は、自分たちの経験を振り返り、理数科全体を俯瞰するような気づきを得ています。

【自己の振り返り】後輩にアドバイスをする過程で、自分たちのこれまでの課題研究の道のりを振り返り、その意義を再確認しました。

【後輩の状況把握】1年生や2年生の進捗や雰囲気、個性を知ることによって、理数科の伝統が受け継がれていることを実感しています。

【経験の言語化】自分が経験した「苦労した道」を後輩が歩まないよう、教訓や反省点を伝えることに意義を見出しており、後輩の意欲的な姿を見て安心感や喜びを感じています。